

写真で紡ぐいなべの風景

ホタルの舞う里山

5月下旬から6月中旬にかけて、市内の各地では光を放つゲンジボタルの姿が見られました。今年は例年に比べて飛び始めの時期が少し早かったようです。撮影に行くと、近隣の人や家族連れなどたくさんの人が見に来ていました。

山林や小川など、豊かな自然が暮らしの中に溶け込むいなべだからこそ見られる風景です。



藤原町坂本の屋根のない学校



藤原町下野尻の用水路



北勢町麻生田の六把野井水

— 藤原岳自然科学館の職員に聞きました —

＼ホタルの豆知識／

みなさんの「ホタル」のイメージは、清流で見られる幻想的なものではないでしょうか。市内でよく見られるゲンジボタルやヘイケボタルの幼虫は、水中で暮らします。水中で暮らすホタルは世界的に見ても珍しく、ほとんどのホタルは陸上で暮らし、カタツムリなどをえさとしています。夜行性で光るホタルというのも少数派で、多くは昼間に活動し、発光もしません。



ゲンジボタルのメス。飛びながら光るのはオスが多い。

＼観察のポイントと注意点／

7月に入るとゲンジボタルはほとんど見られなくなり、ヘイケボタルやヒメボタルが出てきます。観察に適しているのは月明かりが弱く、風のない蒸し暑い夜です。ほかには昼間に活動するオバボタル、クロマドボタルなどがこの時期によく見られます。

夜行性のホタルは、光を目印にオスとメスがコミュニケーションをとります。懐中電灯や車などの明かりは、ホタルにとって大きな障害となるので、極力明かりをつけないようにしましょう。

水辺にはマムシやヤマビルなどがある場合があります。長そで、長ズボン、長靴などの服装で出かけましょう。また、地域住民の生活の妨げになるような路上駐車や行動は控えましょう。

問 藤原岳自然科学館 ☎ 46-8488